

市の動き

北上市チャレンジデー2018実施 ニュージーランドの都市と交流

北上市チャレンジデー2018は5月30日、北上総合運動公園などで行われました。

チャレンジデーは、日ごろからスポーツに親しみ、健康づくりに関心を持つきっかけづくりが目的。今年は、長崎県大村市と、初めて海外都市であるニュージーランドのマタマタ・ピアコ地区と15分以上運動した住民の参加率を競い合いました。

海外対戦相手との交流として、マタマタ・ピアコ地区とインターネット中継を利用し、北上翔南高校鬼剣舞部が鬼剣



選手として出場した自身の経験を交え、ラグビーワールドカップについて語る大畑さん(右)

◆各都市の最終結果

	北上市	大村市	マタマタ・ピアコ地区
参加者数	62,021人	64,805人	18,091人
人口	92,851人	95,971人	30,500人
参加率	66.8%	67.5%	59.3%

舞、マタマタ・ピアコ地区の子どもたちがマオリ族の伝統的な舞であるハカを披露し合っている。互いに健闘を誓いました。また、ニュージーランドの人気のスポーツであるラクロス、クリケット、ペタンクなどを市民587人が体験し、スポーツに親しんだほか、同国のスポーツ文化に触れて、同国への理解を深めました。

釜石シーウェイブスRFCとスポーツ振興に関する相互協力・連携協定を締結

ラグビー日本代表でラグビーワールドカップ2019アンバサダーの大畑大介さんが各イベントに参加。市民と交流したほか、トークショーでは、大畑さんからラグビーワールドカップ経験者と高橋市長が対談し、ラグビーワールドカップの魅力やスポーツの素晴らしさなどを語り合いました。チャレンジデーの結果は、当市の参加率は66・8パーセ

ントと過去最高。参加率67・5パーセントの大村市にはわずかな差で敗れてしまいました。参加率59・3パーセントのマタマタ・ピアコ地区には勝利しました。翌31日には、インターネットを利用して、高橋市長らがマタマタ・ピアコ地区のジャン・バーンズ市長と対談し、互いに健闘をたたえ合い、交流を深めました。

釜石シーウェイブスRFCとのスポーツ振興に関する相互協力・連携協定書調印式は5月30日、本庁舎で行われました。式には同クラブの桜庭吉彦ゼネラルマネジャーと高橋市長が出席。各代表者の署名がされた協定書を交わしました。

同協定は、市と同クラブがさまざまな分野で協力・連携し、両者の活動の充実を図るとともに地域社会の発展に資することが目的です。今後両者は、小・中学生を対象としたスポーツの普及や推進のほか、スポーツツーリズムの推



協定書を交わす桜庭ゼネラルマネジャー(右)と高橋市長



いいあんべ
「きたかみE & Beエフエム」
周波数は88.8MHz！

ロゴマーク

**試験電波
発信中！**

■運営に関する問い合わせ…北上ケーブルテレビ(株) ☎64-5111
■施設整備に関する問い合わせ…都市プロモーション課 ☎72-8231

子育て世代の意見交換ワークショップ

子育て世代の意見交換ワークショップは6日、健康管理センター付属館で行われました。市は、老朽化した健康管理センターや江釣子保健センターに代わる、健康づくり・子育て支援を一体的に行う新施設の整備を予定しています。同ワークショップは、子育てをしている市民の意見を聞き、新設を検討する上で参考にするものです。

3回目となった今回は、幼い子を持つ7人が参加。前回までの結果を基に設定された新施設の概要について意見を交わしました。今回のテーマは、使いやすい部屋と施設内の間取り。「軽い食事や昼寝ができるスペースがあると良い」「事務室を奥にすると入りやすい雰囲気になる」など保護者の目線から意見が出されました。

市は今後もワークショップなどを行い、出された意見を参考にして検討を進めます。新センターの開所は32年度中の予定です。



意見交換をする参加者

(株)バイタルネットと災害時における物資の供給に関する協定を締結

(株)バイタルネットとの災害時における物資の供給に関する協定書調印式は7日、本庁舎で行われました。式には同社岩手営業部の諸岡一之部長と高橋市長が出席。互いに署名した協定書を交わしました。

同協定は、災害時に市と同社が相互に協力し、円滑な救援活動を行うために必要な事項を定めたもの。災害が発生した際は、市の要請により、

一般用医薬品や衛生用品が同社から供給されます。そのほか必要に応じて、連絡員の相互派遣や収集した情報の相互提供を実施。有事における迅速な状況判断、また、被災者へのきめ細かい対応に役立ちます。

災害時の供給物資

- 一般用医薬品…かぜ薬、消毒剤、離乳食、飲料水など
- 衛生用品…マスク、おむつ、生理用品、ガーゼなど

新教育長を任命

市教育委員会は新教育長に平野憲氏(60歳・本通り)を任命しました。任期は6月1日から3年間で

【経歴】…釜石東中学校長、北上北中学校長、飯豊中学校長を歴任。30年3月退職。



平野 憲 氏

正常性バイアス



な日常生活の延長上の出来事として捉えてしまい、都合の悪い情報を無視したり、『自分は大丈夫』『今回は大丈夫』『まだ大丈夫』などと過小評価するなどして、逃げ遅れの原因となる。

災害や事故、事件が起こると必ずと言っていいほど、逃げ遅れによる被害の拡大や行政の対応の遅れが指摘される。それらの多くは、人間に本来備わっている正常性バイアスに起因するといわれる。

正常性バイアスとは何か。インターネット上のフリー百科事典ウィキペディアは次のように解説している。

「正常性バイアス(英: normal bias)とは、認知バイアスの一種。社会心理学、災害心理学などで使用されている心理学用語で、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと。

自然災害や火事、事故、事件などといった自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常

人間の心は、予期せぬ出来事に対して、ある程度『鈍感』にできている。日々の生活の中で生じる予期せぬ変化や新しい事象に、心が過剰に反応して疲弊しないために必要なのはたつきで、ある程度の限界までは、正常の範囲として処理する心のメカニズムが備わっていると考えられる」

災害時において被害を最小限に食い止めたり、事故や事件を未然に防いだりするためには、誰もが持っているこの正常性バイアスを乗り越えるシステムが必要である。我々が災害や事故、事件を検証し、予防措置を考える際にはこの事を決して忘れてはならない。